

問1 九州地方の工業立地の変化について述べた次の文の空欄に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。「かつての九州の工業は北九州工業地帯などの沿岸部を中心に発展したが、近年は内陸部へと広がっている。特に（ ① ）周辺には（ ② ）の工場が多く立地しており、製品は主に（ ③ ）によって各地へ運ばれている。」（2016年 岡山公立入試 類似）

1. ① 高速道路のインターチェンジ ② 集積回路（IC） ③ 航空輸送やトラック輸送
2. ① 鉄道の貨物ターミナル ② 鉄鋼 ③ 船舶輸送
3. ① 大規模な港湾 ② セメント ③ 鉄道輸送
4. ① 原料の産地 ② 繊維製品 ③ パイプライン輸送

問2 九州地方の農業について、茶の生産状況を説明した文として正しいものはどれですか。（2017年 岐阜公立入試 類似）

1. 鹿児島県は、静岡県に次いで国内で2番目に高い茶の生産量を誇っている。
2. 福岡県は、三重県や京都府を抑えて国内で最も茶の生産量が多い。
3. 宮崎県は、九州地方の中で最も茶の生産割合が高い県である。
4. 九州地方では茶の生産は行われておらず、近畿地方が全国の生産の大部分を占めている。

問3 九州地方において、集積回路（IC）などの電子部品を製造する工場が、従来の重化学工業のような沿岸部ではなく、内陸部の空港や高速道路の周辺に多く立地している主な理由を説明したものととして、最も適切なものはどれか。（2016年 岡山公立入試 類似）

1. 製品が小型で軽量かつ高付加価値であるため、運賃コストよりもスピードを重視した航空輸送やトラック輸送が適しているから。
2. 原材料に大量の鉄鉱石や石炭を使用するため、海外からの輸入に便利な内陸部のインターチェンジ周辺が選ばれたから。
3. 大規模な製造装置を動かすための電力を確保するために、火力発電所や原子力発電所が集中する空港付近の立地が必要だから。
4. 工場の排水による海洋汚染を防ぐため、法律によってすべての先端技術産業は海から離れた場所に建設するよう義務付けられているから。

問4 福岡県の工業は、かつては北九州工業地帯を中心とした鉄鋼業や化学工業などの重化学工業が盛んでしたが、1970年代の石油危機以降、産業構造に大きな変化が見られました。この変化の内容と背景について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2016年 東京都公立入試 類似）

1. 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。
2. 石油危機を契機に北九州工業地帯の鉄鋼業をさらに強化し、海外からの原料輸入に頼らない自給自足の体制を整えることで、製造品出荷額を維持した。
3. 1980年以降、製造業が県外の愛知県や神奈川県へ流出したため、工業地帯を縮小し、九州地方の特産品を活かした農業中心の産業構造へと転換した。
4. 環境問題への対策として沿岸部の工場をすべて閉鎖し、福岡市を中心とした商業と観光業のみに特化する政策をとったことで、工業出荷額は減少傾向にある。

問5 日本の諸都市の気象データにおいて、一月の平均気温が十度前後と高く、かつ七月の月降水量が三百五十ミリメートルを超える非常に多い降水量を示す都市として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福井公立入試 類似）

1. 宮崎市 2. 札幌市 3. 金沢市 4. 大阪市

問6 九州地方の北西に位置し、朝鮮半島との最短距離にあることから、歴史的に大陸との外交や貿易の中継地となってきた島があります。鎌倉時代に元軍が日本へ侵攻した際にも、その地理的条件から最初の攻撃対象となったこの島の名称は何ですか。（2018年 三重公立入試 類似）

1. 対馬 2. 五島列島 3. 隠岐 4. 佐渡

問7 土地の条件に応じた人々の生活の工夫について、南九州のシラス台地における水利用の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 福井公立入試 類似）

1. 火山灰が堆積した層は水分を保持しにくいいため、地下数十メートルの帯水層まで届く深い井戸が作られた。
2. 水田稲作に適した粘土質の土壌が広がっているため、ため池を各地に作り、網の目のような水路を張り巡らせた。
3. 土地が非常に平坦で水が滞留しやすいため、住居を高く盛り土した「輪中」のような構造の中に井戸を掘った。
4. 地表の土壌が非常に硬く掘削が困難なため、遠方の河川から「疎水」と呼ばれる長い水路を引いて水を確保した。

問8 九州地方の熊本県に位置し、火山の噴火によって形成された世界最大級の凹地（盆地状の地形）である「カルデラ」を持つことで知られる活火山を選びなさい。（2016年 三重公立入試 類似）

1. 阿蘇山 2. 雲仙岳 3. 桜島 4. 霧島山

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ① 高速道路のインターチェンジ ② 集積回路 (IC) ③ 航空輸送やトラック輸送	九州地方では、1970年代以降に九州自動車道などの高速道路網が整備されたことで、内陸部への工業進出が加速しました。特に空港や高速道路のインターチェンジ付近には、製品の重量が軽く、迅速な輸送が求められる集積回路 (IC) の工場が集中しています。これらは重量のある原料を輸入し、製品を輸出する沿岸部の重化学工業とは異なる立地条件を持っています。
問2	答え 1 鹿児島県は、静岡県に次いで国内で2番目に高い茶の生産量を誇っている。	日本の茶の生産は静岡県と鹿児島県の2県が突出しており、鹿児島県は全国第2位のシェアを誇ります。九州地方には宮崎県や福岡県といった産地もありますが、生産量において最も多いのは鹿児島県です。近畿地方の京都府なども茶の産地として有名 (宇治茶など) ですが、生産量ベースでは鹿児島県や静岡県が上位を占めるのが現状です。
問3	答え 1 製品が小型で軽量かつ高付加価値であるため、運賃コストよりもスピードを重視した航空輸送やトラック輸送が適しているから。	集積回路 (IC) は、鉄鋼や石油化学などの製品と比べて非常に小型で軽く、製品あたりの価格が高い「高付加価値製品」です。そのため、船舶による大量輸送よりも、高速道路を利用した自動車輸送や、空港を利用した航空輸送によって、市場の需要に合わせて迅速に出荷することが重視されます。このように交通の利便性を求めて内陸部に工場が並ぶ様子から、九州はアメリカの事例になぞらえて「シリコンアイランド」と呼ばれます。
問4	答え 1 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。	福岡県では、官営八幡製鉄所の操業以来、北九州市の沿岸部を中心に鉄鋼業などの重化学工業が発展してきました。しかし、1970年代の石油危機による不況を境に、産業構造の転換が進みました。広大な用地や労働力を求めて、内陸部や県東部に自動車工場が進出したことで、加工組立型の工業が成長し、県全体の産業を支える新たな柱となりました。
問5	答え 1 宮崎市	太平洋側に位置する宮崎市は、沖合を流れる暖流の黒潮 (日本海流) の影響を受けるため、冬でも一月の平均気温が十度前後と温暖な気候になります。また、夏から秋にかけては、湿った南東の季節風や台風の影響を強く受けるため、七月の降水量が三百五十ミリメートルを超えるなど、全国的にも極めて降水量が多いのが特徴です。札幌市は一月の気温が氷点下となり、金沢市は冬の降水量が多く、大阪市は宮崎市ほどの降水量には達しません。
問6	答え 1 対馬	九州、中国地方、四国の一部を含む周辺海域の中で、朝鮮半島に最も近い位置にあるこの島は、軍事・交通の拠点でした。元寇の際には、元軍が博多湾へと進むルートの途中でこの島や壱岐を制圧し、九州本土への足掛かりにしようとした。
問7	答え 1 火山灰が堆積した層は水分を保持しにくいため、地下数十メートルの帯水層まで届く深い井戸が作られた。	シラスは火山灰などの噴出物が積み重なってできた土壌であり、非常に水を通しやすい性質を持っています。台地の上では水がすぐに地下へ抜けてしまうため、古くから水不足に悩まされてきました。この問題を解決するために、鹿児島県の一部地域では60メートルを超えるような深い垂直の井戸を掘り、地下深くの帯水層から水を汲み上げる工夫がなされました。これは、関東地方の火山灰土である関東ローム層とは異なる、シラス特有の堆積の厚さと性質に起因するものです。
問8	答え 1 阿蘇山	熊本県の中央部に位置する阿蘇山は、大規模な噴火活動によって形成された「カルデラ」と呼ばれる巨大なくぼ地が特徴です。このカルデラの中には平坦な土地が広がり、多くの人が居住して農業や観光業を営んでいる点が、他の火山にはあまり見られない大きな特徴です。